

翔

2008 October No.194

百万石蝶談会



石川県志賀町でウラナミアカシジミを採集

浅 地 哲 也

能登地方では、これまで宝達山でしか確認されていなかったウラナミアカシジミを志賀町で採集したので報告する。

ウラナミアカシジミ 2008年7月30日 石川県羽咋郡志賀町田原 2頭 浅地哲也

谷に沿って細長く伸びた水田沿いの道を歩いていると、水田の両側の雑木林からオレンジ色のチョウが何頭も飛び出し、水田上を飛んで行くのを観察した。この付近では、アカシジミは普通に見られると聞いているので、ムモンアカシジミでもないか採集すると本種だった。

ウラナミアカシジミは、加賀地方の低山地に広く分布しているが、能登地方では、これまでに宝達山の1例しか知られていない（三上秀彦、2001）。

今回の中能登での観察が、能登地方における本種の生息地解明につながれば幸いである。

《参考文献》

松井正人（2001）石川県の低地および能登丘陵周辺のゼフィルス．翔(153):1-2.

三上秀彦（2001）口能登でウラナミアカシジミを採集．とつくりばち(67):24.

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-7》



石川県宝達山でオオチャバネセセリを観察

松 井 正 人

最近減少していると言われているオオチャバネセセリを、宝達山で観察したので報告する。新鮮な個体が、アザミに訪花していた。

2008年9月6日 石川県羽咋郡宝達志水町宝達山頂上 4頭目撃 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県宝達山でキベリタテハを目撃

松 井 正 人

石川県宝達志水町の宝達山（標高637m）において、キベリタテハを目撃したので報告する。

頂上近くの標高570mには宝達志水町営の「山の龍宮城」があり、午後1時50分に、この施設の前に止めた車に乗ろうとしたところ、車の周りをキベリタテハが飛んでいた。ネットは車の中にあり、ドアを開けようすると、本種は足下から車の下にもぐり込んだ。止まったのかとのぞき込むと、車の前方から飛び出し森の中に消えていった。

2008年9月15日 石川県羽咋郡宝達志水町宝達山 1頭目撃 松井正人

本種の発生地は、おおよそ標高1500m以上のダケカンバ帯で、石川県内では白山周辺に生息しているだけで、今回の目撃個体は、どこからか飛来したものと思われる。本種には、かなりの移動性があるようで、これまでも輪島市鉢伏山（日吉芳朗, 2000）や輪島市舳倉島（後藤義夫・他2名, 2007）で飛来した個体が観察されている。

宝達山は、渡りをする事で知られるアサギマダラが飛来する山で、9月にはたくさんの個体が飛来する。キベリタテハを目撃した3日前の9月12日には、群馬県と山梨県の標識を付けたアサギマダラがそれぞれ1頭観察され、その後は毎日のように標識を付けた個体が観察され、15日を含め9月20日までに、

福島県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県などの標識を付けた19頭が観察されている。

アサギマダラの渡りは、風を利用していると思われ、各県の標識を付けた個体が宝達山にたどり着いた風に乗って、キベリタテハも飛来したのではないだろうか。

《 参考文献 》

後藤義夫・他2名（2007）2006年、輪島市舳倉島で新たに蝶3種を目撃する. 翔(184):1-4.

日吉芳朗（2000）キベリタテハを輪島市鉢伏山で目撃. 翔(147):1.



石川県のヒサマツミドリシジミ調査

松 井 正 人

■第1期（1978年～1979年）

チョウ愛好家にとってヒサマツミドリシジミは、あこがれのチョウであり、1977年までは、福井県小浜市百里ヶ岳（藤岡、1975）が石川県から最も近い産地だった。ところが、1978年3月に、富山県下新川郡でウラジログシから採卵されたことが同年6月に発表され（五十君、1978）、にわかに石川県内分布の思いが高まった。

福井と富山の両県に分布し、挟まれた石川県に生息しない訳は無いと、1978年の秋には蝶談会有志による採卵調査が行われた（井村ほか、1979）が、石川県内では発見できなかった。しかし、石川県内の調査と並行して行われた富山県内の調査では、1979年1月に婦負郡細入村（現富山市）に於いて宮川沿いのウラジログシから卵が見つかった（井村、1979）。その後、同地では幼虫や成虫も観察され、石川県から最も近い観察地として愛好家が訪れるようになった。

■第2期（1989年～1990年）

ヒサマツミドリシジミの分布調査は、「福井むしの会」や「岐阜県昆虫同好会」においても精力的に進められていたようで、1986年には、「岐阜県昆虫同好会会誌」に、揖斐川、長良川、木曽川、神通川の水系でヒサマツミドリシジミを観察し、残るは庄川水系であり、採卵調査を行っていると報告された（宮野、1986）。また、1988年には、「福井むしの会会誌」に、福井県嶺北地方からも1984年に採卵により生息が確認できたと報告された（下野谷、1988）。

これらの情報から、蝶談会内ではヒサマツミドリシジミ調査が再燃し、石川県と富山県で採卵による調査が行われ、石川県内では発見できなかった（井村ほか、1990a）ものの、富山県内では、新たに片貝川、早月川、常願寺川、庄川、小矢部川の各流域から発見され、大きな河川の流域には全て生息することが判明した（井村ほか、1989）（中西ほか、1990）（井村ほか、1990b）。しかし、庄川以西は、ウラジログシの密度が以東のそれに比べると明らかに低くなり、小矢部川流域では、東よりの支流となる西大谷川で見つかっただけである。第2期では、この西大谷川（現南砺市）が石川県から最も近い観察地となった。

■第3期（2001年～2006年）

第2期から10年後の2000年、小矢部川本流の西砺波郡福光町（現南砺市）でウラジログシから採卵され（三上、2001）、観察地が石川県まで1.2kmの距離と近接したことにより、県境付近に於いて採卵調査が行われたが、この時も石川県内では発見されていない（松井、2002）。そして2002年に、石川県と富山県の県境となる医王山北方稜線上の百万石道路で、2♂が同時に採集され（細沼、2002）、その後は、ほぼ同じ場所で毎年何頭かの採集が続いている。この場所が、石川県なのか富山県なのかと議論されていたが、2006年には金沢

市犀川ダムで1♀が採集され（橋場、2006）、ようやく誰もが認める石川県内での採集記録が生まれた。

■第4期（2008年～）

これまで行われてきた石川県内と富山県内の調査から、ヒサマツミドリシジミは分布を拡大し、富山県から石川県に進入してきたように思われ、これからも分布の拡大が予想される。ヒサマツミドリシジミの食樹のウラジログシは、県内ではほとんど伐採され、急な渓谷斜面にわずかに残されている程度と少ないが、これまでの調査からウラジログシの所在地は分かっている。今後は、これまでの成果を生かし、県内の分布の状況を継続して調査する必要がある。

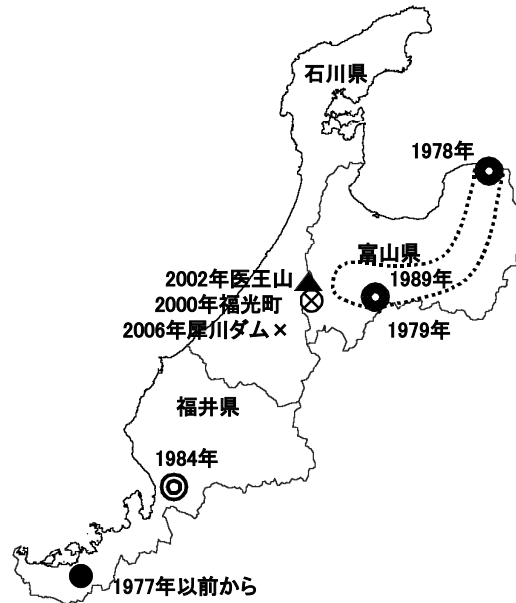
しかしながら、調査がスタートして

から経過した30年の歳月は、かつては情熱の塊だった面々から情熱を失せさせたばかりか、体力をも奪い取ってしまった。ヒサマツミドリシジミの調査には、絶壁に立つ大木へ上り下りする体力と技術、卵を見る眼、羽化させる飼育技術などが必要となる。これらを1人でやってのけるのは、困難であり現実的ではない。調査は、これまでのように数人で取り組み、1人1人の特徴を生かすことによって成し遂げられると思われる。

《参考文献》

- 藤岡知夫（1975）ヒサマツミドリシジミ，日本産蝶類大図鑑：108。
 橋場 清（2006）金沢市でヒサマツミドリシジミを採集，とっくりばち(74):79。
 細沼 宏（2002）医王山でヒサマツミドリシジミを採集，翔(158):1。
 井村正行（1979）富山県神通川のヒサマツミドリシジミについて，翔(4):5。
 井村正行・他（1979）ヒサマツミドリシジミ探索記，翔(3):2。
 井村正行・他（1989）富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査（その1）翔(81):1-2。
 井村正行・他（1990a）石川県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査（その1）翔(82):3-4。
 井村正行・他（1990b）富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査（その3）翔(84):3-4。
 五十君哲郎（1978）ヒサマツミドリシジミ富山県東部に産する，昆虫と自然 13(6):35。
 松井正人（2002）ヒサマツミドリシジミ採卵の有力ポイント，翔(158):7。
 三上秀彦（2001）富山県福光町におけるヒサマツミドリシジミの記録，翔(150):3。
 宮野昭彦（1986）ヒサマツミドリシジミ観察・採集ノート（2），だんだらちょう(13):27-28。
 中西重雄・他（1990）富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査（その2）翔(82):1-2。
 下野谷豊一（1988）ヒサマツミドリシジミ嶺北地方にも分布，だんだら(2):22。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》



北陸三県のヒサマツミドリシジミ観察年

2007年アサギマダラ日記

松 井 正 人

■ 5月12日 珠洲市でアサギマダラ調査説明会

前年、初夏の北上シーズンには、珠洲市の外浦海岸に多数にアサギマダラが飛来していることが分かり、珠洲市での調査を進めるために、珠洲市の里山里海自然学校に協力してもらい、旧小泊小学校で「アサギマダラ調査説明会」を実施。大人、子供合わせて35人ほどの出席があり、皆さん興味津々で、珠洲の海岸調査に参加してくれそうだ。

説明会が終わってから、海岸を回るとスナビキソウが咲いていた。

■ 5月26日 アサギマダラを初観察

天気は良いが風が強く、加賀から能登にかけて強風注意報が出ている。気温はなかなか上がらず、調査は1時間遅らせ7時からスタート。羽咋市一宮海岸から順にスナビキソウが多い海岸を調べながら北上する。6箇所の海岸を調べ「今日もいないか」とあきらめかけた最後の海岸、輪島市鹿磯浜でようやく2♂を観察する。風が強く、舞い上がった1頭は吹き飛ばされ、1頭にマーキングする。



珠洲市赤神海岸
テトラポット背後の砂利浜にスナビキソウが咲く



羽咋市一宮海岸
海岸調査のスタート地点(後方は宝達山)



志賀町赤崎海岸
赤崎の砂は粗くて歩きづらい



志賀町大島(おしま)海岸
スナビキソウは花盛りだがアサギマダラはいなかった

■ 6月6日 珠洲で1分1頭のマーキング

珠洲市仁江で6時からマーキングをスタートしたが、数時間前の大雨がたたったのかアサギマダラが現れない。30分が過ぎた頃から現れ始め、気温が22度を越えると湧き出すかのように数が増えてきた。8時30分に川浦海岸に着くと、びっしりとスナビキソウに止まっている。風下から静かに採集しマーキングする。海岸調査では初めての1分に1頭のマーキングが、30分ほど続いた。



珠洲市笹波海岸
わずかな砂浜にスナビキソウが咲いている

狼煙海岸に着いたのは9時15分、気温は25度まで上がり、背後の照葉樹林の中で休息しているアサギマダラが何頭も観察できた。白いタオルを回すと、みんなまっしぐらに飛んできたが、全て前日に珠洲チームが同地でマーキングした個体だった。珠洲チームも頑張っているようだ。この日は、本来スナビキソウには飛来しないと言われているメス3頭を含めた152♂3♀にマーキングできた。



珠洲市狼煙(のろし)海岸背後の照葉樹林
アサギマダラは暑くなるとこの中で休息している

■ 7月28日 アサギマダラの「おしっこ」を観察

前年に聞いていたアサギマダラの「おしっこ」をようやく観察した。金沢市医王山の夕霧峠でマーキングしていると、新鮮な♂がヨツバヒヨドリで吸蜜し、花から花へ飛び移る際に、飛びながら何かを落とした。花から飛び上がる時に落としたのではなく、飛び上がり、パタパタと羽ばたき、隣の花に移る際に落とした。その後、30分観察を続けたが、2度目は無かった。「おしっこ」は、アゲハ類のポンピングのように、大量に摂取した水溶液の中から必要な養分、たとえばピロリジジナルカロイド等をこしとった余分な水分を排泄しているのかもしれない。



金沢市医王山のヨツバヒヨドリ
7月中下旬頃、医王山では早朝の涼しい時間帯にアサギマダラが観察できる

■ 8月26日 真夏の山伏山でアサギマダラを観察

珠洲市山伏山の標高は180m。8月に入って、何頭も観察されているとの情報に出かけることにした。頂上付近にある奥社の前にヒヨドリバナが数本咲いていて、8時頃に2頭を観察し1匹にマーキングする。暑い時期の低い場所での観察に驚くが、気温は24度と高くはなかった。

山伏山は、能登半島の最先端にあり、陸地づたいに北上してきたアサギマダラが、眼前に広がる日本海に驚き、しばし躊躇する場所なのかもしれない。



照葉樹林に囲まれた山伏山の奥社
奥社前にわずかな日当たりがあり、ヒヨドリバナが咲いている

■ 9月6日 福島さんが宝達山でマーキング

「ほうだつ」マークを始めとして、喜界島で毎年数々の再捕獲を記録されている福島 誠さんが、宝達山にいらっしゃった。前日は、中村明男さんの案内で白山市荒谷でマーキングされ、今日は宝達山でのマーキング。時期はちょっと早かったものの、午前中の2時間で20頭ほどが飛び出し、福島さんは7頭にマーキングされた。喜界島では振る必要を感じないと言いながらも、白タオルを振って見せてくださった。



左手に白タオルを持つ福島さん
喜界島では白タオルを振る必要が無いらしい

■ 9月13日 宇野さんを慕ってアサギマダラが乱舞

午前中は、宝達小学校のマーキング会。ところが子供達のいる間は、ほとんどアサギマダラが飛ばず、マークできたのは5頭と悲惨な結果となった。お天気も良く、気温も高いのに不思議でならない。11時頃に岡崎市の宇野さんがやって来ると、一挙にアサギマダラの飛翔数が跳ね上がった。これまでもそうだが、宇野さんが来るとアサギマダラの乱舞が始まる。宝達小学校のマーキング時とはうって変わって、次から次へとアサギマダラが湧いてくる。宇野さんを慕ってアサギマダラが飛来するかのようで、来年のマーキング会は宇野さんにお願いしよう。

■ 9月15日 フェーン現象で人もアサギマダラ也大乱舞

夜は寝苦しく朝から暑い。最高のコンディションと9時に宝達山に到着すると、山頂の気温は26度と高く、アサギマダラが乱舞している。堀さん夫妻は、7時半からマーキングを始めているらしい。アサギマダラも次々と飛来したが、マーキングする人達も次々にやって来た。今日は、珍しく北アルプスが一日中見えていたが、白山は一日中雲の中で、台風が東シナ海から日本海に侵入しそうな位置に有るのが原因かもしれない。

今日1日で、23人が335頭にマーキングした。

■ 9月29日 堀さんギナンドロモルフを採集

気温が低い。平地は21度あるのに、頂上は16度とかなり低い。アサギマダラはいないと思われたが、葉の無い木の枝にいくつもとまっている。高い場所なので飛ばして採集しようと試みるが、なかなか捕まらない。午後3時に交尾個体が見つかり、木を揺らすと回りに止まっていたアサギマダラは一斉に飛び立ったが、交尾個体は飛び立たない。飛び立ったアサギマダラに白タオルを振るが、反応せずに飛び去った。これまでタオルに敏感に反応していただけに、反応しないアサギマダラに寂しさを感じた。

堀さん夫妻は、私以上にアサギマダラにのめり込み、今日も林の中を駆けずり回っている。そして、「これは♂ですか♀ですか」と見せてくれたのが、右が♂、左が♀のギナンドロモルフだった。



アサギマダラのギナンドロモルフ
右翅は左翅より一回り小さく、右後翅に性斑があり、左後翅には無い。腹部の模様は♀。

■ 10月6日 アサギマダラの観察終了

快晴。空気も澄み、下界から宝達山がクッキリスッキリ見える。午後2時の頂上の気温は20度あり、風も無く日当たりにいると暑いが、日陰に入ると寒い。堀さん夫妻は、朝からマーキングに来ているが、1頭を目撃しただけ。虫の羽音も声も聞こえず、宝達山は静まりかえっている。アサギマダラは、みんな行ってしまったようで、なんだか寂しい。

会員の動き・しゃばの動き

■ 1時間に138mmの集中豪雨

7月28日朝、金沢市湯涌地区はかつて経験したことのない集中豪雨に襲われ、山肌がアチコチではげ、土砂を含んだ濁流が、浅野川沿いを総なめにした。道路もズタズタに寸断され、温泉から奥は完全にマヒした。

■ 舳倉航路の定期船に飛び込んだ

7月28日14時頃、舳倉島の港に停船中の定期船に、アサギマダラが飛び込んだ。海上飛翔中によりやく見付けた舳倉島、ヨレヨレになってたどり着いたらしい。

■ スジアカクマゼミ調査

古い文献によると、韓国のスジアカクマゼミは生枝の枝先に産卵し、産卵痕から先端にかけて枝は枯死するとされている。7月から始まった今回の調査で、金沢においても同様の結果が得られた。

■ 怒りとむなしさ

浅野川大水害を耐え抜いたヤナギ林、浅野川小学校下流域に広がっていたヤナギ林が、いつの間にか伐採されてしまった。これから再び単調な河川整備が施されると思うと、むなしくて仕方がない。

■ ないない3拍子の指田氏

昆虫関係の雑誌を読まない。虫友と接しない。標本を眺めない。最近めっきり老け込んだかのような指田氏、今年はギフの採集に1度だけ行ったきりで、採集意欲がほとんど無い。かつて「飛んでるヤツを自分のネットで採らないと」と豪語していた氏は、どこへ行ったのだろうか。皆さん、指田邸へ遊びに行つて、標本を見せてもらおう。

■ 富山県のアサギマダラトンボ

8月13日、朝日の滝で変なトンボが見つかった。羽に模様があると思ったら番号が書いてある。黒褐色の羽に白で「233」と書いてあったが、現地で調査しているのだろうか、それとも移動してきたのだろうか。

■ アサギマダラTシャツ

アサギマダラの再捕獲で有名な喜界島のアサTを某テレビ局のスタッフが着ていた。ムムムっと思っていると、宝達山のアサTができたので喜んでいた。しばらくして、マーキングで有名なグランデコにもアサTがあることがわかった。となれば、姫島やびわ湖バレーにもあるかもしれない。

■ 今年はセミの裏年か

エゾゼミの仲間の抜殻が、ほとんど見つからない。前年は、簡単にいくつも見つかり、今年は密かにアカエゾゼミの抜殻調査を計画していたがポシャった。大阪府の身近ないきもの調べによると、セミの発生は隔年で増減するようで、奇数年に多く偶数年は少ないようだ。

■ 霧の宝達山で

「乳白色の霧の中、まるで透明な櫛で髪をすいたように走る小雨を遊ぶかのように水色の羽をひらひらと舞うアサギマダラ」と、吉川素子氏は書いているが、霧の中から徐々に輪郭を明らかにし不動の一字姿勢で近づいてくるアサギマダラは、気品と力強さに溢れ、触れてはならないと威圧するかのようであった。宝達山には、時として異空間を漂う不思議な世界が待っている。

■ウエザーニュースのクマゼミ調査

8月に一般の人に呼びかけて、クマゼミの声を聞いたら知らせてもらう方法で、クマゼミの生息地を調べたら、日本海側は新潟県南部まで分布が広がった。金沢では、石川県庁に移植した樹で今年も鳴いていたが、似たような声が各地で聞かれたのだろう。

■クロマダラソテツシジミの驚異

大津市の諸道特派員によると、クロマダラソテツはどこかで越冬したらしく、今ではほったらかしのソテツを発生源に、大津市で大発生しているらしい。

■アサギマーキング前線に異常

9月に入り、宝達山には多数のアサギマダラが飛来し、マーキングで賑わっている。宝達山で放蝶したものが、各地で再捕獲される数は、概ね100頭に1頭と放蝶数に比例しているが、宝達山での再捕獲は、ここ数年は年に0～2頭の状態だった。ところが、今年は19頭も観察されている。

■宝達山のキベリタテハ

9月15日、アサギマダラの再捕獲に沸く宝達山でキベリタテハが観察された。情報を仕込んだ細沼氏は、自由の身を生かして、再確認に励んでいる。

■ 例 会 の 記 録 ■

8月7日(木)浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、井村会長がスジアカクマゼミの産卵枝を数種類持ち込み、産卵枝の見分け方を伝授。スジアカは、生枝先に産卵し、産卵によって枝が枯れるため、枝先にある時期外れの枯葉が産卵痕の目印になる。

その他の話題は、能登のウラナミアカシジミ、能登のオオルリハムシ、能登のハネビロエゾトンボ、75ミリオーバーのミヤマクワガタ、などなど。

参加は、浅地、山岸、細沼、井村、長田、松井の6人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

浅地哲也：石川県志賀町でウラナミアカシジミを採集	1
松井正人：石川県宝達山でオオチャバネセセリを観察	1
松井正人：石川県宝達山でキベリタテハを目撃	2
松井正人：石川県のヒサマツミドリシジミ調査	3
松井正人：2007年アサギマダラ日記	5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 194号

Tobu 2008年10月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

